

文化財学習会

ふるさと探訪

テーマ 香南町・中山城山の史跡を訪ねる

講師 西村 雅彦

(城山顕彰会理事・
前香南歴史民俗郷土館館長)

杉山 有美

(香南歴史民俗郷土館学芸員)

平成27年1月25日(日)

共催 高松市歴史民俗協会
高松市文化財保護協会
高松市教育委員会

1 香南町

香南町は大字岡、由佐、吉光、横井、池内、西庄の六地区にわけられる。現在では高松市香南町として香川県のほぼ中央に位置する、高松空港がある町である。

2 冠纒神社

祭神にたらしなかつひこのみこと帯中津日子命、ほむだわけのみこと品陀和気命、おきながたらしひめのみこと息長帯比売命をお祀りしている。

冠纒神社は香南町由佐にある神社。別名は「かむる八幡宮」で、香南町の氏神として親しまれ、縁結び神社としても知られる。

秋季例祭で披露される夫婦大獅子舞で使用される大獅子は県指定有形民俗文化財で、日本一の大きさともいわれる。讃岐国香東郡井原庄出生説もある安倍晴明が神主をしていたという伝承もある。

貞観三年（八六一）、讃岐巡礼中の円珍が井原庄に

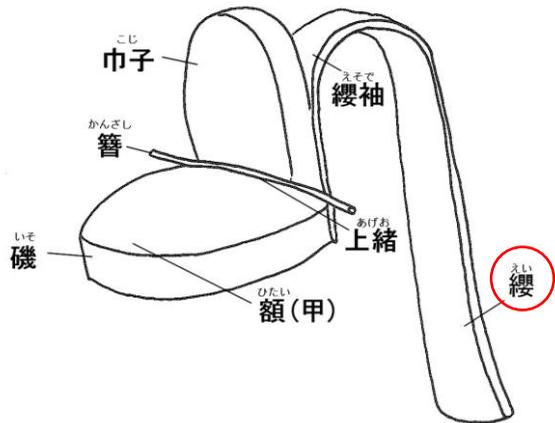


冠纒神社

着いた時、鳩峰大自在王菩薩きゅうほうだいじざいおうぼさつが現われて井原庄を鎮護すると云った。このため円珍はこの地の里人の力を借りて、宝蔵寺を建てた。延文二年／正平十二年（一三五七）、細川頼之ほそかわよりゆきが厚く保護・尊崇し石清水八幡宮（京都府八幡市）の冠纓を奉納した。このことから冠尾（かむりお、またはかむろ）八幡宮と呼ばれるようになり、後に冠纓神社となる。現在も地元の人「かむろ」と呼んでいる。以後も細川氏による信仰・保護を受け、細川氏が衰えた後も由佐氏がこれを引き継いだ。後に讃岐国を支配した生駒親正や松平頼重も社領の寄進をするなど当社を保護している。

3 丸岡家の長屋門

丸岡家は、香南町岡村の庄屋を代々勤めた家であり、明治期に入っても、岡村の戸長・由佐村の助役・由佐村会議員・衛生組合長などを努めた家系である。代々家には岡村の庄屋文書が残されており、現在その文書は瀬戸内海歴史民俗資料館に保存され、



香川の歴史を知る上で重要な資料として扱われている。

4 丸岡原の燈籠

明治四年（一八七二）九月に献燈。岡村氏子中の人々によって建てられている。高さ三百九十六センチ。

岡村氏子中とあることから、冠纓神社の岡村氏子たちによって寄進された燈籠であることがわかる。燈籠の建っている姿がなんともアンバランスでおもしろい。



丸岡原の燈籠



丸岡家の長屋門

5 天福寺

真言宗御室派 美応山宝勝院天福寺

本尊 薬師如来立像

縁起は、天平年中(七二九〜七四九)に行基が諸国行脚の途中、この地に来られ、由佐おんだにの音谷を仏法相応の霊地であるとされ、五尺三寸(約百六十一センチ)の薬師如来を彫刻し、一堂を建立、安置し、美応山びおうざん法輪院清性寺ほうりんいんせいせいじとしたのが起源といわれる。

その後、延暦年中(七八二〜八〇六)に空海がこの寺に来遊され、真言宗の道場とした。天福元年(一一三三)には、四条天皇が国司たちばなのきみただ橘公忠に命じて現在の所に移し、真言宗に改宗すると共に、寺号を天福寺と改めた。

細川頼之が居を構えたという岡館の近く



天福寺

にあり、長く細川氏の保護下にあつたようである。

天福寺には数多くの宝物が保管されており、毎年八月二十一日には「お虫干し」を行い、境内に展示し一般に公開している。

※ 仁王様と狛犬

天福寺が長宗我部元親により焼き払われた後、本尊薬師如来のみは仮祠に安置され、その他の仏像は元の堂宇のあつた所に晒されていた。江戸時代に入り、時の藩主松平頼重公により現存する天福寺の諸堂が再建されたが、仁王門だけは後回しになった。すると阿形・吽形の仁王は悲しみ落胆し、これは仁王がおるのに寺が焼かれた故仁王門を造ってくれないものと勘違いし、その責をとり切腹した(今も吽形の仁王には腹の付近が折れている)。旧の仁王門は現在地の下方付近にあつたらしいが、その後現在地に再建された。しかし、このとき仁王像が石造りのため重たくて人間の力では上の所に安置することが出来ず困っていると阿吽の仁王様が立ち上がり仁王門の中に自ら入り座したという。

また、山王堂が再建されたとき狛犬の製作を左甚五郎ひだりじんごろうに依頼し、出来上がったので御堂に安置した。しばらくすると毎夜のごとく近隣の田畑が荒らされることが多くな

り、農家の人々は困り果て、その原因を調べるため毎夜見張っていた。するとある夜、山王堂の扉が開き狛犬が出て近くの田畑を荒らしているのを発見した。それを見た農家の人はその対策を住職に相談した。そこで住職は狛犬の頭に五寸（約十五センチ）もある大きな釘を三本ずつ打った。それ以来狛犬は外に出ることはなくなったということである。

普通仁王像は木造りであり、狛犬は石造りであるが、天福寺の場合それが逆になっているのが興味深い。

※ 安倍清明の墓

寺に伝わる江戸中期の「天福寺由来記」には平安時代に「阿部氏清明」（原文のまま）なる人物が寺に関係し、近くに一族の墓があると記され、同時代の古地図に「清明屋敷」と「阿部氏堂（墓）」が描かれている。

墓は少し離れた山間にあったが、現在は本堂脇に移っている。

「安倍清明之墓」と伝えられる石の祠の中には、丸い石に長い石が立てかけて安置されており、不思議な雰囲気漂わせている。

6 由佐城跡

由佐城は、由佐氏の居城で、東は香東川、西に沼地の多い自然を巧みに利用した要塞である。天正十一年（一五八三）長宗我部元親軍が攻め入ったが容易に落城しなかつたと伝えられる。

由佐家に残る由佐家文書のなかに「由佐城絵図」があり、そこには香東川の西岸に柳並木があり、それに接して「下之城」があり、その西に内堀を隔てて「上之城」が

描かれている。上之城を中心に周囲十六町ばかりを外堀、内堀によって仕切り、各地区は橋で結ばれ、外との連絡も南、北、西に設けられた橋によって行われていたことがわかる。

かつて由佐家の城跡では内堀、土塁跡を見ることができた。今でも香南歴史民俗郷土館の敷地内、庭園西側には土塁の跡が残



由佐城跡

されている。周囲には南門という地名も伝えられている。

7 中山城山墓所

なかやまじょうざん

郷土史研究の先駆者 『中山城山』

宝暦十三年（一七六三）二月二十四日 中山城山は香川郡池西村大字横井（現在の香南町横井）に生まれた。

江戸時代の天下太平の世では学問、文芸、教育がめざましい発展をし、徳川家康は儒学を官学として武士らの学ぶものとし、特にその中でも朱子学に力をいれた。水戸藩と深い関係の高松藩も朱子学が盛んで藩校でもこれを講じた。一方、この朱子学派とは別に荻生徂徠を祖とする徂徠学派のおぎゅうそらい 藤川東園ふじかわとうえん（大内郡白鳥の出身で、父とともに大坂にいたが、のち三谷に来て東園塾を開き多くの弟子を持った）らが高松藩にも出てくる。この東園



中山城山墓所

中山城山は香川郡池西村大字横井（現在の

をよき師として学んだ城山、このような讃岐の土壤の中で、経術・文章・誌文・漢学・仏典・国学を学び精通し、その学才が認められ、高松藩国家老の大久保氏に招かれ家老の夫人に毛詩や国歌を教授したという。

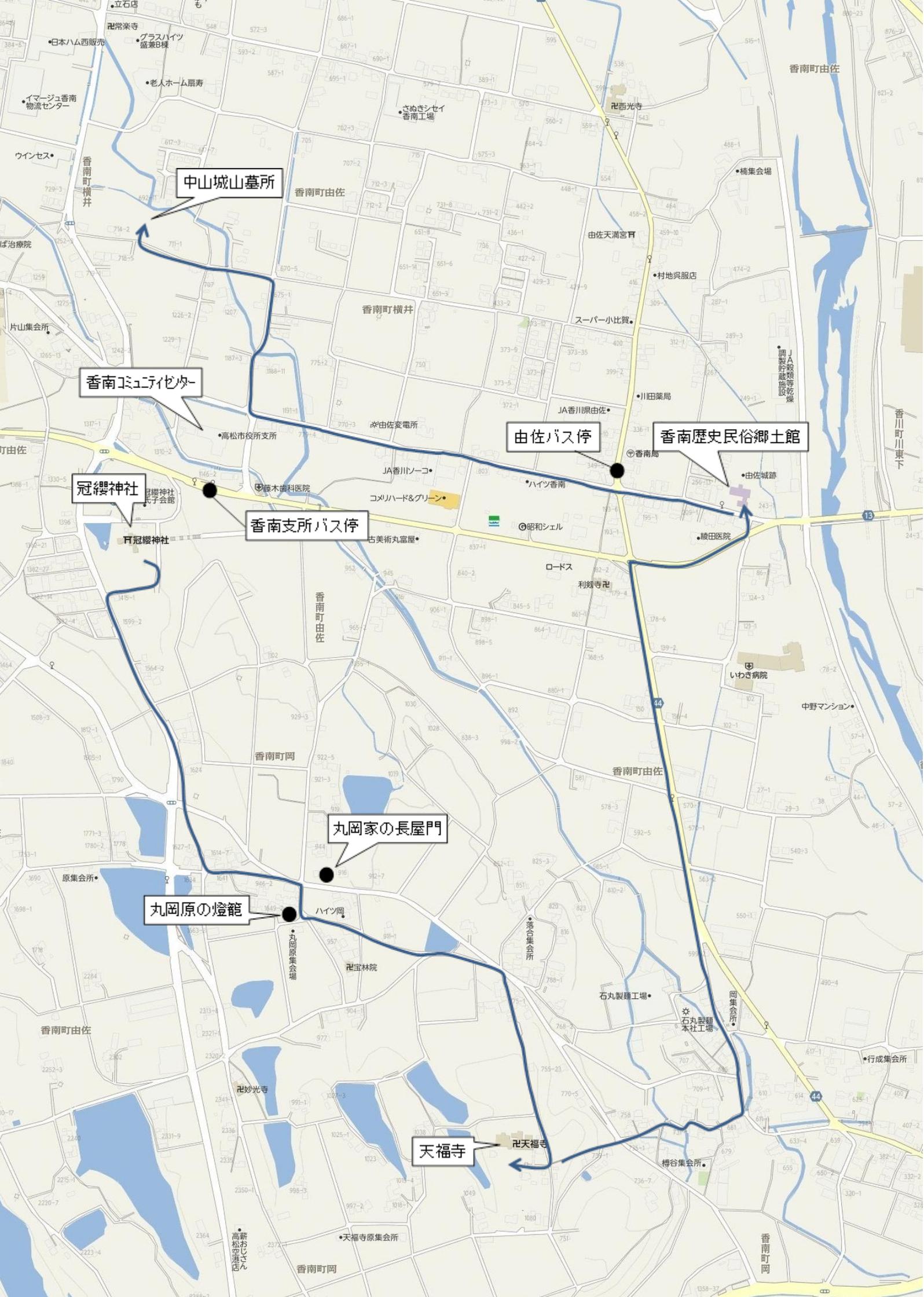
のち、夫人の死によって国を離れ大坂・京都・長崎にいたが、文化十二年（一八一五）五十三歳のとき、子供に先立たれたので郷里に帰り「全讃史」全十二巻を実に十年余りをかけ 文政十一年（一八二八）に完結させ、高松藩に献上している。

「全讃史」は、みな城山自身が、讃岐の全域にわたって尋ね歩き、实地踏査のうえでかき上げた労作であり、今日の郷土史研究の貴重な書物となっている。序文は高松市塩江町出身の門弟、藤澤東咳ふじさわとうがいが書いている。

城山の号は、生涯愛し続けたという坂出市府中の城山きやまからとったものである。そのため、城山の石碑が、坂出市高屋町の遍照院境内にあつて城山きやまに向かつて建てられており、ここでも弟子藤澤東咳が撰文している。

天保八年（一八三七）四月二十三日病歿 七十三歳 墓所が香南町横井にある。

なお、城山生涯の著作は四十七部、百二十五冊に達したのである。



中山城山墓所

香南コミュニティセンター

冠纓神社

香南支所バス停

丸岡家の長屋門

丸岡原の燈籠

天福寺

由佐バス停

香南歴史民俗郷土館

1月25日(日) 香南町からの復路

◆瓦町・高松駅行き ことでんバス

(香南支所前)	(由佐)	(瓦町)	(高松駅)
11:32	→ 11:34	→ 12:09	→ 12:20
	12:05	→ 12:40	→ 12:51
13:22	→ 13:24	→ 13:59	→ 14:10

次回のふるさと探訪は・・・

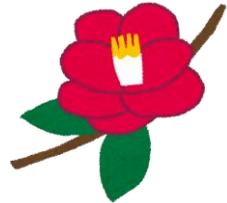
テーマ 前田地区の文化財を訪ねる
と き 平成27年2月22日(日)
9:30～12:00頃

集合場所 前田コミュニティセンター

講師 千葉 幸伸さん(高松市歴史民俗協会会長)

☆広報「たかまつ」2月15日号に開催案内を掲載しますので、御覧ください。

☆小雨決行。警報発令等により中止の場合のみ、文化財課(TEL 839-2660「午前7時30分～開始時間まで」)でお知らせします。(電話が通じない場合は、「実施」です。)



★次回の交通案内★-----

◆ことでんバス

〈大学病院・ことでん高田駅行き〉

(高松駅)	(瓦町バス停)	(学校前バス停)
8:00 発	→ 8:10 発	→ 8:45 着
8:40 発	→ 8:50 発	→ 9:25 着

「ふるさと探訪」に
参加される皆様へ



※ 参加中は、次のことに充分留意し、
安全で意義のある探訪としましょう。

- 1 交通ルールを守り、交通安全を心がけましょう。
(必ず歩道を歩き、歩道が無いところでは、道路の
端を一列で歩きましょう。)
- 2 無理をせず、体調には十分気をつけましょう。
- 3 引率者の指示に従い、整然と行動しましょう。
- 4 マナーを守り、他人に迷惑がかからないよう気を
つけましょう。
- 5 文化財や自然を大切にしましょう。